

(百年の礎を築く) - [戦略12] 悠久の宝の継承～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～

(1)現状と課題		(2)概要					(3)施策体系					(4)県民アンケート結果		
<p>本県には、加藤・細川をはじめとする歴史・文化、阿蘇の草原、豊富な地下水などの自然や景観など、地域から愛され、守られてきた世界に誇る資源が溢れています。このような熊本の宝を、県民を挙げて磨き上げ、生かし、未来へと継承していく取組みが必要です。</p>		<p>ラフカディオ・ハーンが提唱した「簡易・善良・素朴」の熊本スピリッツ(精神)のもと、特に、熊本の誇りであり宝である「熊本の地下水」「加藤・細川400年の歴史・文化」「阿蘇の草原」をはじめとする熊本の優れた文化や、先人達によって慈しみ、守られてきた豊かで心安らぐ熊本の原風景を守り、磨き上げ、次世代へと継承します。</p>					<p>◆歴史・文化を磨き上げる ～地域にある歴史と文化の磨き上げと情報発信～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部・土木部・教育庁】</p>					<p>【満足度】</p> <p>H26 6.6 24.2 52.7 13.5 3.0 H25 6.6 19.2 55.7 14.3 4.2</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>1.2 (%) 43.8 55.0 (4位)</p>		
★戦略指標(単位)		策定時	H24	H25	H26	目標値	H	事業数	決算額	H	事業数	予算額		
i	文化施設の利用者数 〔万人〕	94.8 (H23)	102.9 <102.9%>	98.9 <98.9%>		100.0 〔万人/年(単年)〕	H	11	411,539千円	H	11	1,540,184千円	<p>◆世界遺産登録をめざす ～世界遺産登録に向けた取組みの推進～ 【担当部局:企画振興部】</p>	
	分析		県立美術館分館の利用者減に伴い、全体の利用者数も減少となった。											<p>【満足度】</p> <p>H26 6.0 20.9 58.8 10.2 4.1 H25 6.2 14.3 60.5 13.1 5.9</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>7.5 (%) 48.0 44.5 (6位)</p>
ii	世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数 〔か所〕	5 (推計値)	11 <78.6%>	12 <85.7%>		14 〔か所(累計)〕	H	1	43,794千円	H	1	54,807千円	<p>◆県民と共有する ～地域の宝の共有と将来へわたって守り・育む仕組みづくり～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部・農林水産部・教育庁】</p>	
	分析		H25年7月に「阿蘇」の構成資産である「豊後街道」が国史跡に指定され、1件増加した。											<p>【満足度】</p> <p>H26 3.6 18.3 64.8 11.0 2.3 H25 4.4 13.8 67.0 10.7 4.1</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>1.4 (%) 51.8 46.8 (5位)</p>
iii	松橋収蔵庫フィールドミュージアム 【補】事業における参加者数 〔万人〕	1 (H23)	1.6 <80.0%>	2.5 <125.0%>		2 〔万人/年(単年)〕	H	9	112,231千円	H	10	506,189千円	<p>◆地下水を守り抜く ～地下水保全対策と「水の国くまもと」の実感できる取組みの推進～ 【担当部局:環境生活部】</p>	
	分析		移動展示及び移動体験教室の実施件数の増加に伴い、参加者も増加した。											<p>【満足度】</p> <p>H26 12.9 31.4 34.9 16.5 4.3 H25 13.9 27.4 31.9 18.9 7.9</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>0.2 (%) 27.4 72.4 (1位)</p>
iv	細川コレクション 永青文庫展示関係の入場者数 〔万人〕	3 (H23)	4.3 <107.5%>	3.9 <97.5%>		4 〔万人/年(単年)〕	H	5	17,038千円	H	6	22,355千円	<p>◆阿蘇の草原・景観を引き継ぐ ～阿蘇の草原と景観の保全・継承～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部・農林水産部・土木部】</p>	
	分析		同時期開催の特別展の開催回数の減少(H24:3回、H25:1回)の影響により減少した。											<p>【満足度】</p> <p>H26 12.3 33.2 36.6 14.3 3.6 H25 12.5 27.5 36.1 16.4 7.5</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>0.4 (%) 31.9 67.7 (2位)</p>
v	熊本地域の地下水涵養増加量 (白川中流域水田湛水事業等による涵養量) 〔万㎡〕	2,065 (H23)	1,675 <46.5%>	1,931 <53.6%>		3,600 〔万㎡(単年)〕	H	7	70,869千円	H	7	73,398千円	<p>◆素晴らしい景観を守る ～素晴らしい景観の保全と活用～ 【担当部局:農林水産部】</p>	
	分析		主要事業である白川中流域水田湛水事業について、当該地域における九州北部豪雨災害の復旧が進み湛水面積が増大したことから涵養量が増加した。											<p>【満足度】</p> <p>H26 10.9 30.9 40.7 13.3 4.2 H25 11.2 24.5 41.2 16.3 6.8</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>0.4 (%) 32.5 67.1 (3位)</p>
vi	【補】景観行政を行う市町村数 〔市町村〕	7 (H23)	7 <43.8%>	9 <56.3%>		16 〔市町村(累計)〕	<p>②くまもとの自然・景観の保全・継承</p>							
	分析		関係市町村が目標年度を定めて景観行政団体への移行を順次進めており、H25年度に2市が当初目標のとおり移行を果たした。											
vii	野焼き・輪地切りボランティア参加者数 〔人〕	2,137 (H23)	2,103 <67.0%>	2,386 <76.1%>		3,137 〔人/年(単年)〕	<p>◆素晴らしい景観を守る ～素晴らしい景観の保全と活用～ 【担当部局:農林水産部】</p>							
	分析		ボランティアの安全対策強化を図るとともに、ボランティアバスツアーの実施や自衛隊OB隊友会の参画等、支え手を確保する取組が功を奏したため、約13%の増加となった。											

No.	(5)平成25年度の主な成果	(6)平成26年度の推進方針・推進状況	(7)問題点(隘路)・課題	(8)今後の具体的な方向性
<p>施策57</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部有識者の検討を経て、熊本県立図書館・熊本近代文学館機能拡充整備基本計画を策定 永青文庫からの預かり品等の調査・修復、展示作品数の拡充等の結果、常設展示入場者が目標(3.3万人)を超える約3.9万人に増加 熊本駅から新町・古町、熊本城に向かう散策ルートに設置する案内媒体のデザイン、設置場所等を検討 鞠智城に関する各種PR活動により知名度が向上した結果、東京及び大阪で開催したシンポジウムに400人・500人が参加 若手研究者を対象に鞠智城関連の研究論文を公募し、選考された5人の研究成果をまとめた論文集を発刊 「くまもと歴町50選」選定地区の全地区に銘板を配付し、7カ所で銘板・説明板の設置を支援した他、トリビアブックを作製・配布 H24年度実施の人吉・球磨地方古社寺建造物調査の成果から、人吉市の重要文化財として新たに5件の指定が実現 	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画に基づき、県立図書館の収蔵庫設置、空調設備等の改修を終えるとともに、近代文学館リニューアルに向けた設計を完了し一部工事に着手 細川コレクションは県立美術館で常設展示を継続し、永青文庫所有の美術品等の調査を進め、展示内容を充実 <u>散策路整備に向け、前年度の検討内容をもとに、熊本市やルート沿線住民等と協議</u> <u>PR活動を継続し、温故創生館入館者数を前年比約1.3%増加させ、鞠智城の知名度や歴史的価値の認知度を向上</u> <u>若手研究者育成、研究推進等に関する事業を継続し、鞠智城跡に関する研究を深め、学術的価値の情報を発信</u> <u>選定地区に対し、町並み整備に対する補助金交付及び情報発信や人材育成を実施</u> <u>古社寺等文化遺産の保存・活用などの方向性を定めたマスタープランを策定し、市町村等とも連携して取組を推進</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 工事期間中のできる限りのサービス提供及び基本計画コンセプトの展示設計への具体的反映が必要 より多くの県民に観覧していただくため、長期的に魅力ある展示計画の整備が必要 道標とする道路面上への案内媒体設置には、熊本市(道路管理者)の協力が不可欠 鞠智城が国営公園として決定されるための知名度や歴史的価値に対する認知度等が不足 発掘調査成果を学界等に広く認知させるため、関東圏を中心とした広報活動の継続と研究の更なる活性化が必要 既存制度(重要伝統的建造物群保存地区等)との連携や、町並み整備・保全等に関する地元の意識向上・理解促進 古社寺の中には、過疎化や少子高齢化等に伴い、き損が進んでいる建造物があるため、保存等の対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 工事業者との調整による工期中のサービス提供の確保、近代文学に歴史・子どもの視点を加えた新施設にふさわしい展示室と常設展示の設計 展示可能な美術品について、永青文庫等関係機関と連携し、展示テーマ・内容等を検討 案内媒体のデザイン、内容、設置場所等を熊本市や沿線住民等と協議のうえ決定 知名度等の向上に加え、国営公園として相応しい集客力を有することを証明する資料を作成 学術的価値を向上させる取組の継続と情報発信、認知度を高めるためのPR広報 町並み保全、周辺環境整備への支援を継続して実施 地元での保存・活用の機運を醸成しながら、国の登録有形文化財の登録等を推進 	
<p>施策58</p> <ul style="list-style-type: none"> 万田坑、三角西港を含む「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産推薦が決定し、推薦書をユネスコへ提出 天草の崎津集落を含む「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の次年度での国推薦に向け、関係機関と推薦書案等を磨き上げ 	<ul style="list-style-type: none"> <u>ユネスコの諮問機関が行う現地調査等について国及び関係自治体と協力して的確に対応し、登録に向けた取組を推進</u> <u>今年度の国推薦決定に向けた国への働きかけや推薦書のブラッシュアップ、気運醸成のための取組を推進</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の自治体の資産で構成するため、各自治体と連携した確実な資産の保存管理や広域的な啓発等が必要 天草市と連携した資産・近隣区域の修景・景観整備、駐車場やトイレの整備等の来訪者対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 関係区市との連携を強化して諮問機関の現地調査等に確実に対応し、世界遺産登録を実現 国推薦決定、推薦書提出後の調査機関の現地調査を見据えた修景等準備を実施 	
<p>施策59</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内どこに住んでいても博物館活動に参加できる“熊本タイプ”の博物館の構築に向けた総合博物館ネットワークの行動計画を策定 松橋収蔵庫の改修で、資料の保存環境改善と収蔵スペースの増加が図られ、収蔵資料を活用したフィールドミュージアム事業が充実 「手仕事ごよみ」に関する旬の情報発信に開設したHPとFBのアクセス数とフォロワー数が18,456人・2,639人に増加 山鹿灯籠が国の伝統的工芸品に指定 郷土料理の伝承活動を行う「くまもとふるさと食の名人」を新たに25名認定し、活動者数が292名に増加 	<ul style="list-style-type: none"> <u>“熊本タイプ”博物館のH27年度始動に向けた機能の充実</u> <u>松橋収蔵庫所蔵資料を活用したフィールドミュージアム事業の県内各地での展開を一層推進</u> 県民の意識向上を図るため、HPとFBを引き続き企画・運営し、手仕事と暦を結び付けた情報をタイムリーに発信 天草陶磁器、小代焼について販路開拓等の補助を実施し、山鹿灯籠について振興計画策定の支援を実施 <u>「くまもとふるさと食の名人」の人材発掘による新規認定及び郷土料理の伝承のためのレシピ集作成に着手</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 県内の博物館、資料館等との連携強化 認知度をさらに高めるため、コンテンツの魅力向上や、啓発イベントの実施など効果的な情報発信が必要 各産地団体は基盤が弱く、販路拡大等の活動を行うためには支援が必要 「くまもとふるさと食の名人」の高齢化による活動の停滞が懸念されるため、人材の発掘や育成が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 県内どこに住んでいても博物館活動に参加できるための体制の構築 効果的な情報発信を通じた、県民が生活の中で伝統食、工芸、芸能を楽しむ機運の醸成 県伝統工芸館や関係市町村等と連携し、各産地団体が行う販路拡大等の活動を支援 食文化継承のためのレシピ集作成や伝承の場の設定を強化 	
<p>施策60</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下水採取の許可手続きに関する地域別相談会を21回開催し、142者の参加により制度の浸透が進展 「くまもと地下水会議」の提言を踏まえ、県・熊本地域11市町村で地下水保全の第2期行動計画(H26～30年度)を策定 水の国フォーラム(450人参加)、水の作文コンクール(4,420編応募)、戦略的広報の展開等で、「水の国くまもと」の認知度が向上 硝酸性窒素削減対策の実効性を高めるため、市町村、農業関係者、地下水財団等と連携した取組を実施 	<ul style="list-style-type: none"> <u>専任職員の配置など体制を強化し、個別訪問の実施等により地下水採取許可申請を促進</u> <u>第2期行動計画に掲げた涵養量等の目標達成に向けて、行政・地下水財団・事業者等が協働して対策を推進</u> 成長段階に合わせた水環境教育、モニターツアーの実施等により、「水の国くまもと」の認知度を向上 <u>県の硝酸性窒素削減計画の進捗状況を取りまとめて中間評価を行い、関係者と連携した取組を継続</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 許可対象となる採取者の申請が3割程度にとどまっており、制度の周知徹底が必要 第1期行動計画の地下水涵養量が目標の7割程度であり、関係機関の連携により更なる涵養量確保が必要 熊本が豊富な水資源に恵まれた水の国であることが県内外で認知されるよう情報発信が必要 硝酸性窒素濃度上昇の要因や窒素負荷量など不明な事柄に関する調査・把握が必要 	<ul style="list-style-type: none"> H27年9月の許可期限に向けた申請指導を行うなど、地下水保全条例等を適切に運用 第2期行動計画に基づき、行政・財団・事業者等が協働し涵養量確保・節水の取組を促進 県内外における「水の国くまもと」の認知度向上を進め、地下水を守り抜く機運を醸成 硝酸性窒素の濃度や地下浸透状況を把握し、関係者と連携してより効果的な対策を実施 	
<p>施策61</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月策定の「あそ草原再生ビジョン」に基づき、自衛隊OBの参画等を得て難易度に応じた野焼きの支援手を170名確保 阿蘇採石場の安全な終堀形状を確認し、必要な工法等を検討するための技術的な調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> <u>支援手拡充や地元後継者育成の取組を拡大させつつ、阿蘇草原の情報を全国へ発信</u> H25年度に実施した調査を補足するための調査(測量、現況平面図作成)を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地元牧野組合員の減少、高齢化は今後も進行するため、支援手の更なる拡充と維持管理体制の強化が不可欠 地元と二業者の合意に基づくH28年末の終堀の実現に向け、関係機関及び地元との基本合意の形成が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な支援が行えるよう、阿蘇GSと連携して自衛隊OB組織の継続的参画の仕組みを構築 地元と二業者の合意に基づく、H28年末までの終堀の実現 	
<p>施策62</p> <ul style="list-style-type: none"> くまもと里モンプロジェクトによる支援を通じて、美しい景観の保全など89件の取組が展開 山都町や阿蘇郡市に対して景観農振計画の策定支援、山鹿市番所地区の案内板や駐車場整備等のハード面の支援を実施 住民組織等7団体のイエロープロジェクト実施により、66.55haで菜の花・レンゲ等が作付けされ、美しい農村景観を形成 	<ul style="list-style-type: none"> <u>さらなる活動の芽吹きを支援するため、200件程度の活動を支援予定</u> <u>阿蘇郡市で景観農振計画が策定される予定。山鹿市と山都町ではハード面の支援を行う予定</u> 100ha以上の面積で菜の花・レンゲ等を作付し、遊休農地の解消及び新幹線沿線等の農村景観を維持 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の芽吹きを、関連事業等により支援していく必要があり、県庁総動員体制で活動の広がりを支援 景観農振計画の策定には市町村が景観団体となり計画を策定する必要があり、相当の時間とマンパワーが必要 取組への補助終了後も活動が継続されるような支援体制、広く県内各地で農村景観が維持される展開が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間で500件程度の活動が芽吹き、関連事業等により活動の継続や拡がりが見られるよう支援 景観農振計画を、山鹿市、阿蘇郡市、山都町、球磨村等で策定 PR活動を積極的に展開して実施団体の拡大を図り、景観作物の作付面積の増加を促進 	